

主ご自身の大いなる喜びを自分のものとするには

2016年3月13日、仙台福音集会
ゴットホルド・ベック

ネヘミヤ

8:10 さらに、ネヘミヤは彼らに言った。「行って、上等な肉を食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった者にはごちそうを贈ってやりなさい。きょうは、私たちの主のために聖別された日である。悲しんではならない。あなたがたの力を主が喜ばれるからだ。」

詩篇

16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

今、読んでくださったネヘミヤ記の言葉は本当にすばらしい。『悲しんではならない。あなたがたの力を主が喜ばれることです。』主を喜ぶと元気になる。力を与えられるということです。ダビデと言う男は、確かにいろいろなことで悩みました。けども、元気になった。

詩篇

16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

これは、ダビデの体験であり、素晴らしい証しなのではないでしょうか。

静岡県にある家族が住んでいます。知っている人もいるかもしれない。大塚ちひろ兄弟とれいこ姉妹です。この間、手紙をもらいました。内容は、『いっしょに天の御国に行くのを楽しみにしています。今、ちひろとれいこは大変な試練に立たされています。世の中を見ず、自分を見ず、イエス様だけを見ると喜びがわいてきます。感謝です。主よ、来てください。』本当にすばらしい証しなのではないでしょうか。

現実を見ると、『どうしよう?』と言う気持ちになります。イエス様のことを考えれば、誰でも元気になるに違いない。ヨハネ伝から2~3箇所読みます。やはり、喜びについての箇所です。

ヨハネ

3:29 花嫁を迎える者は花婿です。そこにいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされているのです。

いわゆるバプテスマのヨハネの告白であります。私も喜びで満たされている。

ヨハネ

3:30 あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。

彼はそう言ってからすぐ後で、殺されてしまったのです。また、喜びについての箇所ですね。

ヨハネ

15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びが……

イエス様ご自身の喜びが……

15:11 ……あなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

16:24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。

求めなさい。天国に行ってから、みんな思うでしょうね。『もっともっと、求めればよかったのに。主は与えようと思ったけど、求めなかったから、何でもできる主が与えられなかった。』求めること、祈ること、助けを求めることこそが我々にとって、もっとも大切なのではないのでしょうか。

ヨハネ

17:13 わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。

私たちはますます、次のことを覚えるべき、次のことに心を配らなくてはならないのではないのでしょうか。すなわち、自分のことはどうでもいい。自分が良く思われたいとか、人の上に立ちたいとかいうことではなくて、ただ主イエス様が中心になり、イエス様のみが栄光を受けらるるよう。

一方において、信仰者は霊的に成長することがどうしても必要であり、他方(において)は、各人は本当に信者の交わりの中に溶け込むことができ、自分を無にすることです。この二つのことが信じるものにとって一番、大切なことなのではないでしょうか?

私たちは人間により頼むのではなくて、ただイエス様のみ、より頼まなければなりません。そのときのみ、主はわれわれを祝福することができ、用いることができるのです。信じるものの正しい生活というものは、主とともに十字架に

つけられた生活です。

ですから、信じるものにとって、聖書の中の一番、大切な箇所はなんでしょうか？ガラテヤ書 2 章 20 節に違いない。ここで、パウロはガラテヤ地方に住んでいる兄弟姉妹に書いたのです。

ガラテヤ

2:20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

前に読んでもらいましたネヘミヤ記の中で、『悲しんではない。あなたがたの力を主が喜ばれるからだ』とあります。いったいどうすれば、この主にある喜びを体験することができるでしょうか？これに対して簡単ですけど、5つの答えを与えることができるのではないかと思います。

第1番目。私たちが、我々を救うことのできる主の大いなる力を体験的に知るときに、この喜びを体験することができます。私たちはしばしば、自分自身の力で何かをしようとしてますが、不幸にもそのようなときには、この喜びが消えてしまいます。この喜びの秘訣は、『私の思いではなく、主よ、あなたの御心だけがなりますように、』と言うことにほかなりません。

しばしば、主は、(私たちが)考えることとは違ったかたちで、私たちを導くのではないかと思います。我々の思い、私たちの考え、また、感情はイエス様の御心に反している。自分の思いや、自分の考えにこだわるとき、人間は必ず、不幸にならざるを得ない。自分の思い、自分の考えを犠牲にする覚悟のあるものだけが、本当にイエス様の大きな力を、イエス様のすばらしい喜びを体験することができます。

どうすればイエス様ご自身の喜びを自分のものにするか、という疑問に対する答えは、今、話したように、すなわち、イエス様を自分の救い主として受け入れるとき、許されたことを信じ、いつまでも主のものとなったから、喜ぶことができる。

2番目の答えは、イエス様のご臨在を確信することも、大いなる喜びを与えてくれます。私たちがイエス様に従って行こうとするとき、自分は本当にどうしようもないもの、ダメなものであり、何の力もないことを知るようになります。

私たちが本当に打ちひしがれ、砕かれたときに、主イエス様を見上げれば、われわれの弱さにもかかわらず、主の大いなる力、主のすばらしい喜びを自分のものにする事ができます。私たちはいつ、いかなる場合でも決して、決して

一人ぼっちではない。いつでも、イエス様が近くにおられ、共におられます。イエス様はお別れの言葉として言われました。

マタイ

28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、……

たまにじゃない。日曜ごとにじゃない。

28:20 ……いつも、あなたがたとともにいる。

旧約聖書からです。

哀歌

3:57 私があなたに呼ばわるとき、あなたは近づいて、『恐れるな。』と仰せられました。

これを体験すると、本当にうれしくなる。イザヤも同じようなことを、主の召使いとして言ったのです。よく引用される箇所です。

イザヤ

41:10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

イザヤに与えられた御言葉、約束だけではない。私たち一人一人にも与えられているものです。ありがたい。イエス様ご自身が共におられる。この確信こそ、われわれに大きな喜びを与えてくれます。

今までのことをまとめると、次の二つのことがわれわれに喜びを与えてくれることが分かります。一番目、私たちがイエス様の救う力を体験するとき、私たちは本当に解放され、嬉しくなり、まことの喜びを知るようになります。二番目の答えは、私たちがイエス様のご臨在を確信するときも、うれしくなります。元気になります。前向き生活をするようになるようになります。

3番目の答えはイエス様の導きを確信し、体験するときも我々に大きな喜びを与えてくれます。我々の人生においては、しばしば、いったい、この場合に私たちは何をしたらいいのか、何をすべきかという問題に直面するときがあります。そう言った時こそ、私たちはイエス様がともにおられ、私たちを導いておられるという確信を持つことができれば、本当にありがたい。幸いです。これこそ、我々の本当の喜びを与えてくれるものです。

この世のことにおいて、さまざまな出来事が起こってきます

けど、何ひとつとして、主の許しなくして、生じてくるようなことはありません。私はまことに生きている主イエス様によって、導かれているのだ、という確信こそ、大いなる喜びを与えてくれるに違いない。

詩篇の作者であるダビデは、主に守られている、主に導かれていると経験したから、喜びに満たされた。詩篇の 23 篇 3 節はダビデの証しです。

詩篇

23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

結果として、彼は心配から、不安から解放されたのであります。同じくダビデはまた、詩篇の 107 篇を見ると、次のように告白することができ、主を褒めたたえることができたのです。

詩篇

107:6 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救い出された。

107:7 また彼らをまっすぐな道に導き、住むべき町へ行かせられた。

107:14 主は彼らをやみと死の陰から連れ出し、彼らのかせを打ち砕かれた。

107:28 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から連れ出された。

136:16 荒野で御民を導かれた方に。その恵みはとこしえまで。

これらの詩篇の言葉はすべて、個人的に体験されたことの証しに他ならない。主によって導かれると言うこのことこそ、まさにイスラエルの民の経験したことです。また、喜びでもあったのです。私たちが主の導きを本当に確信できるときに、大いなる喜びを体験することができます。

どうすれば主ご自身の喜びを自分のもののできるでしょうか？今まで、話したように、イエス様を自分の救い主として、自分を解放するお方として、受け入れるとき、許されたことを信じ、いつまでも主のものとなったから本当に喜ぶことができる。また、イエス様のご臨在を確信することも、大いなる喜びを与えてくれます。また、イエス様の導きを確信し、体験することも、われわれに大いなる喜びを与えてくれます。

もうひとつの答えは、イエス様が我々のためにすべてを備えていてくれる、と言うことも大きな喜びをもたらしてくれます。私たちは、私たち自身では、とても理解できないようなことを、誰でも体験します。なぜ、逃れ道がないのか、まっ

たく分からないと言うようなことを体験することがありますか。

このように、どうして私たちがこんなことを、体験しなければならないのか、まったく、分けが分からないようなときでさえも、イエス様がすべてを備えてくださると言う確信があれば、如何に大きな喜びが与えられることでしょうか。

イエス様は、人間一人ひとりを、適当ではなくて、心から愛してくださるお方です。イエス様がわれわれのためにすべてを備えてくださる。この確信を持つ人々は、本当に幸せである。幸いです。詩篇の作者であるダビデは、それをもちろん、経験しました。

詩篇

23:1 主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。

どうしてこういうふうを書くことが、告白することができたか。経験したからです。

詩篇

34:10 若い獅子も乏しくなって飢える。しかし、主を尋ね求める者は、良いものに何一つ欠けることはない。

ダビデは経験したから、こういうふうを書くことができたのです。あるとき、弟子たちにイエス様は訊いたのです。

ルカ

22:35 それから、主は弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も旅行袋もくつも持たせずに旅に出したとき、何か足りない物がありましたか。」彼らは言った。「いいえ。何もありませんでした。」

パウロはコリントにいる兄弟姉妹に書いたのです。結局、主は必要なものを与えてくださる。

第一コリント

1:7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。

どうすれば、イエス様ご自身の喜びを、自分のものにすることができるでしょうか？今、話したように、イエス様を自分を救うお方として、体験的に知るとき、主は許したと確信するとき。もちろん、イエス様は許すお方だけではない。忘れませぬ。私はあなたの罪を思い出さない。考えられない約束です。

みな、天国へ行って、もう嬉しくて、『イエス様ありがとう！代わりに死なれたから、犠牲になったから。けど、ひどかったでしょう私、これもやったし、これもやらなかったし。』イエス様の答えは、『そうかい？覚えがない。』イエス様は許す

と忘れます。人間には絶対にできない。『私はあなたの罪を思い出さない』という約束は、想像できない。考えられないことです。

イエス様のご臨在を確信する。決して独りぼっちではない。現代の一番、流行っている病気は、分かるでしょう？ 癌じゃない。癌だって、大したもんじゃない。孤独です。孤独病になるともうどうしようもない。もうお手上げだよ。イエス様しか、癒せない病気です。イエス様の導きを確信すると、結局、全部、イエス様のせいになれば、考えられない(ほど)多くの人々が、どうして、なぜ？ イエス様のせいです、と思えば、今は分からないよ。けど、分からなくてもいい。分かる時が必ず来ます。

ですから、永遠の世界に入れば、イエス様と会いますと、楽しいという言葉は、もちろん、適当じゃないけど、いつべんに分かる。生きている間に、やっぱり、おもしろくないことがいっぱいあった。辛かった。けど、いつべんに分かる。何が分かるかと言いますと、必要だった。何の苦しみも、何の悩みもなければ、イエス様だって必要ない。

病気にならないと、医者だって必要ない。自分はどうしようもないものです。哀れんでください。ごめんなさい。許してください。そういう砕かれた気持ちがあれば、イエス様は確かにいる。悩むこととは必要です。なかなか、ピンとこない。けど、必要だけじゃない。考えられないほど大切です。大切だけじゃなくて、最善です。イエス様は最善のことしかできない。ですから、『イエス様は導き手です、イエス様を受け入れます、イエス様はすべてを備えてくださる、』と考えると、喜ぶことができます。

もうひとつの答えは、喜びの源として考えられることは、イエス様が、私たちのようなものを待ち望んでおられると言うことです。このことはまだ、私たちが体験していないんですけど、聖書を読めばこのことが事実である、とはっきり分かります。死ぬと言うことは、死滅してしまうと言うことではない。イエス様の御許に帰ると言うことに他ならない。

ですから、信じる者は死ぬと、『うらやましい。先にゴール・インした』としか、考えられない。ダメな者が残されている。吉祥寺でも最近、だいたい毎週、葬儀があります。けど、やっぱり、うらやましいと思う。ゴール・インした。イエス様と一緒にになった。何日とか、何週間だけではない。何億年かだけではない。いつまでも、イエス様と一緒にいる。考えられない栄光です。

喜びの源とは何でしょうか？ 今、話したように、5つの確信は、いついかなるところにおいても我々に、本当の喜びとまことの勇気を与えてくれます。一番目、イエス様は我々のわがまま、我々の罪、あやまちを許して下さり、御力によって我々を解放して下さるお方です。2番目、イエス様は決し

て、決して捨てない。一人ぼっちにはならない。3番目、イエス様は自ら、我々を導いてくださる、よい牧者です。イエス様の導きは適当ではない。完全です。また、イエス様は人間一人ひとりを愛して下さり、人間一人ひとりのためにすべてを備えていて下さるお方です。また、イエス様は自ら、私たちのようなものを待ち望んでおられます。

イエス様にある喜びは、我々に大いなる力を与え、すべてのことをすりぬく力を与えてくださるのです。この主イエス様にある喜びは、ただ単にひとつの力となるのみならず、我々の信仰の度合を測るものともなります。

私たちがイエス様に不従順であれば、喜びがなくなります。けれども、私たちが正しくないことをした場合に、包み隠さず、イエス様に打ち明けるならば、主は、喜んで全てを許して下さり、新しい喜びを与えてくださるのです。私たちがこの喜びを持っているか、いないかということはどうでもよいことではありません。この喜びがなければ、いかなる証しもできなくなる。そして、イエス様はもはや、我々を用いることができなくなってしまうのです。

詩篇の作者の告白をちょっと、まとめてみましょう。詩篇の5章の11節は、3000年前のダビデの告白であります。

詩篇

5:11 こうして、あなたに身を避ける者がみな喜び、とこしえまでも喜び歌いますように。あなたが彼らをかばってくださり、御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。

32:11 正しい者たち。主にあつて、喜び、楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。

33:21 まことに私たちの心は主を喜ぶ。私たちは、聖なる御名に信頼している。

68:3 正しい者たちは喜び、神の御前で、こおどりせよ。喜びをもって楽しめ。

こういう言葉は、提案じゃない。主の命令です。104編はやはり、ダビデの告白です。

104:34 私自身は、主を喜びましょう。

イエス様は我々も、詩篇の作者であるダビデと同じように、心から主イエス様をほめたたえ、喜ぶことを望んでおられます。

終わり